

再生医療等製品の 研究開発初期の考え方及び カルタヘナ法の対応について

本セミナーでは、基礎研究者が再生医療等製品の実用化を見据えて研究開発する場合に留意すべき、将来的な規制当局への対応を踏まえた主要な論点の解説を行う。また、研究開発品においてウイルスベクター等を用いる場合に求められるカルタヘナ法への対応についても説明する。

2026.6.17 (水) 18:00 - 19:00

オンライン形式 [Webex] ※事前登録必要

登録期限：2026.6.17(水)正午✕



参加
登録

聴講を希望の方は、下記URLまたは上記二次元コードより事前登録ください
<https://ou-dmi.webex.com/weblink/register/r0f99f32c5d424fb662ecb88299faa52f>

対象

AMED再生・細胞医療・遺伝子治療実現加速化プログラムの中で採択された研究開発課題の研究者・開発関係者、支援課題の関係者、AMED等

座長

未来医療開発部 未来医療センター 
センター長 名井 陽

講師

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 再生医療製品等審査部
(併任・ワクチン等審査部) スペシャリスト (バイオ品質担当)

櫻井 陽 先生

Profile

1998年 京都大学 薬学部 薬学科 卒業後、京都大学 理学研究科 修士課程 修了、北海道大学 理学研究科 博士課程 修了。2007年 警察庁 科学警察研究所、2009年 公益財団法人 東京都医学総合研究所を経て、2014年 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 ワクチン等審査部、2020年 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 再生医療製品等審査部、2021年から現職の独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 スペシャリスト (バイオ品質担当)。2025年度に設立した厚生労働省 核酸等の第一種使用等に関する専門委員会 (カルタヘナ委員会) のメンバーでもある。

お問合せ先

大阪大学医学部附属病院未来医療開発部未来医療センター内 RECET事務局
E-mail: osaka-saisei-support@dm.med.osaka-u.ac.jp

RECET